

# 日本医史学雑誌 第五十卷 第四号 目次

原 著

江戸時代の麻疹と医療——文久二年麻疹騒動の背景を考える

鈴木 則子……………五〇

曲直瀬玄朔の著作の諸問題——『山居四要抜粹』『済民記』は玄朔の著作か

遠藤次郎・中村輝子……………五〇七

中国古代・中世における逐月胎児説の変遷

鈴木 千春……………五一九

研究ノート

スペイン宮廷のヴェサリウス

泉 彪之助……………五二一

資料

寛政甲寅考試書類三種——その三

戸出一郎・町泉寿郎……………六二七

池田文書の研究(二十五)

池田文書研究会……………六二六

手塚良斎「医学書御用留」(七)

深瀬 泰旦……………六三六

記事

例会抄録

医の心の歴史的観察と現代の課題

杉田 暉道……………六四〇

高 良斉と日高涼台の用薬倫理をめぐって

中西 淳朗……………六四六

HbA1cの発見の歴史

佐分利保雄……………六四七

精神医学における障害史の臨床的意義

山田 和夫……………六四八

消息

二十一世紀の本居宣長展

蔵方 宏昌……………六四九

大江医家史料館(中津市)完成し公開

中西 淳朗……………六五一

書籍紹介

松木明知編『日本牛痘種痘史文献目録』

蔵方 宏昌……………六五一

中村禎里	『近代生物学史論集』	.....	月澤美代子	.....	六五
青木純一	『結核の社会史』	.....	鈴木 晃仁	.....	六五
高島文一	『鍼の道——内科医の青春』	.....	杉浦 守邦	.....	六五
高島文一	『鍼の道——内科医の青春』	.....	末中 哲夫	.....	六五
文庫めぐり		.....	小曾戸 洋	.....	五五
静嘉堂文庫		.....			
日本医史学雑誌第五十巻	総目次	.....			六〇

《表紙絵解説》

辻 元順 画

「鍾馗図」

幕末期の常陸国土浦藩医であった辻元順（つじげんじゅん）が模写した鍾馗図である。万延元年（1860年）に描かれたもので、紙本墨画にて縦75.8cm、横30cmの一幅である。辻元順は享和3年（1803年）3月15日に、岡本元隆の子として生まれ、諱は安止（やすただ）、号は秋湖、竹蔭散人、青霞堂などと称した。18歳の時に土浦の町医師であった辻益順の養子となる。その後、益順の後をうけ辻家の家督を継ぎ、御徒格となる。31歳の時に華岡青洲の春林軒に入塾し、晩年の青洲に師事する。41歳で御医師見習、64歳で本道奥医師列となる。その子玄喜とともに、土浦藩主土屋家の医師として維新を迎える。維新後も開業鑑札を受け医業にたずさわり、明治13年（1880年）11月27日に78歳で没した。元順は、内科とともに外科をよくし、師の青洲にならって奇患図の下書きなどを遺している。医業の他にも、文雅に長じ、和歌、漢詩、茶の湯などをよくした。技倆もなかなかのものである。表紙の鍾馗図は孫の初節句に際して描いたものとみられる。幕末期の在村文化人の一典型をみることができる。原図は茨城県土浦市辻家所蔵、土浦市立博物館寄託。  
（瀧澤利行）